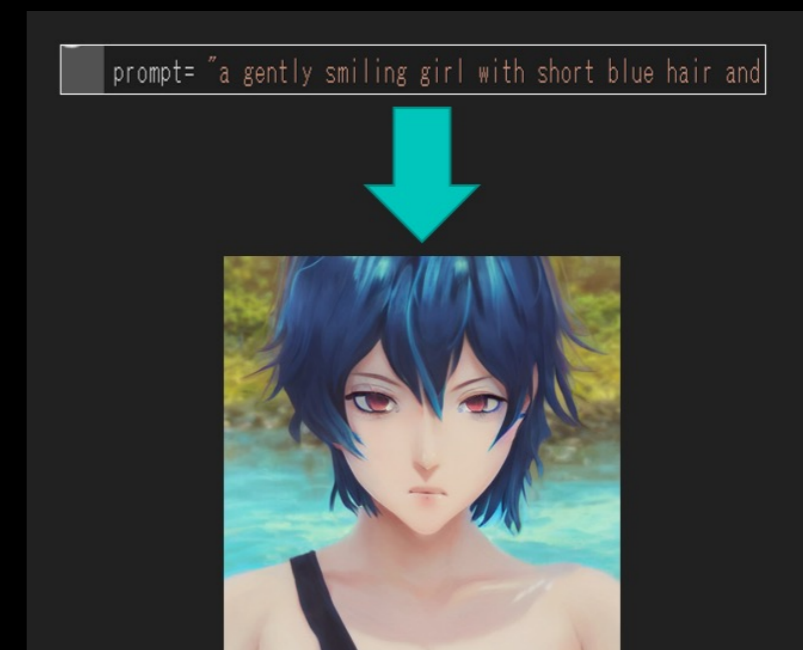


AIアート、その未来について

学習駆動コース コンテンツゼミ 谷口宝

画像生成AIとは？

- 画像生成AIとは、テキストを打ち込んで、そのテキストに沿った画像を出力する技術のこと
- 2022年8月下旬ころにStable Diffusionという画像生成モデルがオープンソース化され、**大ヒット!**
- 画像生成AI自体はかなり昔からある。GAN[1]など。ただしGANが作られた当初はTransformer[2]なども存在しておらず、あまり精度が高くなかったため、バズりは小さかった
- **やったこと、やりたかったこと**
 - AI画像生成という新しい技術に着目した、サイバーセキュリティを普及させるコンテンツの創造
 - 画像生成AI、および**AIアートは素晴らしい技術だと私は思う**→でも放置してしまうと、画像生成AIがブラックな方向へと進んだり、使われるべきでない用途で使われてしまうかもしれない。そこでAIアートだけのコンテストをほとんどだれもやっていない状況で作り、**画像生成AIをアートとして昇華させる場としてコンテスト**を作ろうと考えた!



AIアートコンテストの開催



TOP

- テーマを「**セキュリティ**」としたAIアートのコンテストを開催
- 「セキュリティ」をいかに表現できているかが評価対象
- Twitterを用いた普及活動
- Webサイト制作を用いた普及活動
- 総応募数 35
- 第一次審査+応募期間 2022/9/27~2022/12/31 **いいねが多かった作品約20点が第二次審査に進出**
- 第二次審査・審査発表 2023年1月1日~1月12日

- **二次審査** 審査員5人による評価、審査基準は以下
- いかに「**セキュリティ**」を表現できているか
- 作品が**AIらしいものであるか**
- **promptの面白さ**

審査結果

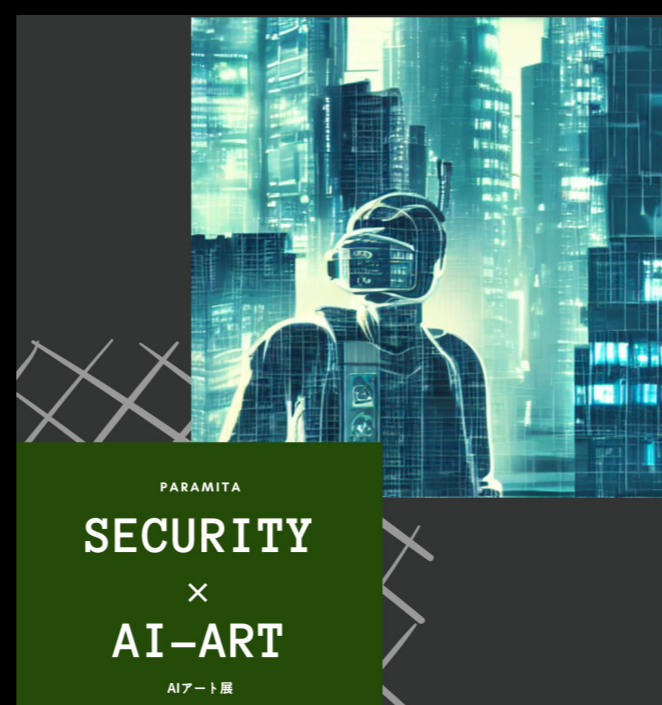


- ポロポロで壁紙が剥がれそうな壁に、図式的でコントラストがくっきりとした、道化的な顔がのぞき窓を覗いているような作品。「ポロポロの壁」「耳ではなく顔」などなど、細部を見ると啓発啓蒙的な意味すら読み取れてしまう。(審査員コメント)

実績

- 夕刊フジ（産経新聞社系全国紙、2022/11/26）掲載
- Webサイト制作

リアル企画展の開催



- セキュリティをテーマとしたAIアートの企画展を実施
- 静止画作品だけでなく、AI画像生成の進化系であるAI動画生成を用いた映像作品も
- 使用アーティストの公演に合わせてチラシを配布
- 2022年11月中旬に開催

コンテストやってみた考察

- 独りでコンテスト運営はきつい。企画や運営に大変で、広報にあまり手を回せず参加人数をあまり集められなかった
- AIアートとセキュリティを結びつけることの難しさ
 - セキュリティ的なテキストを打ち込んでも、本当に脅威が伝えられる作品が表現できるとは限らない。**最優秀作品は審査員の中でも圧倒的に人気だった
 - そのPrompt（画像生成AIを使って画像を作るときに使う文章）は「**壁に顔あり**」というシンプルなもの
- 画像生成AIについての議論から、**アーティストとプログラマ（IT系）のひとりの認識の違いを肌で感じた。**
- 著作権的議論もトレーナーと行った→画像生成AIに関する法律はまだ日本では判例がなく、難しい問題だとわかった。現行の法律では、画像生成に関する画像の学習自体は違法ではない（著作権法30条）。しかしそれが**本当にアーティストの尊厳を守っているか**という**と微妙な気がした。**一方で画像生成AIを礼賛する自分もおり、複雑な気持ちになった。
- アート業界とセキュリティ業界の懸け橋となるようなコンテストを作ることができた
- 新聞に掲載されて取り組みが評価された！うれしかった！

[1]I. J. Goodfellow et al., Generative Adversarial Networks. arXiv, 2014. doi: 10.48550/ARXIV.1406.2661.

[2]Vaswani, A., Shazeer, N., Parmar, N., Uszkoreit, J., Jones, L., Gomez, A. N., Kaiser, L., & Polosukhin, I. (2017). Attention Is All You Need. arXiv. <https://doi.org/10.48550/ARXIV.1706.03762>